

---

# 度

津軽 あまに

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
度

【Nコード】  
N17060

【作者名】  
津軽 あまに

【あらすじ】  
少年が世話をする事になった転校生は、あらゆるモノを%で表現したがる変人だった。温かたりくだらなかつたりする文章が大丈夫な方へ。

「ちなみに私のアンドロイド度は40%です」

そんな悉無律的な指標をパーセンテージであらわす意味がわからないですから。

なんの脈絡もなくそれですか。ぐーでん妄言。

おはようからおやすみまで、彼女一流のザ・ワールドはフルスコットルで全速力です。

「なお、ペースメーカーを入れていらっしやる方のアンドロイド度は15%、ゲーム脳の中学生のアンドロイド度は20%」

いや、その理屈はおかしい。

「かつこわらい」

「冗談ですか。しかも無表情で（笑）とか言わないでいただきたい。

最近、変な友達ができました。

彼女は海の方こうから来たお嬢さんで、ちよっぴり日本語が不自由だそうです。

そんなこんなで、同じく不思議ちゃんポジションの僕がお世話をしているわけですが。

とりあえず昼ごはんに立つ様子もなかったので、学食に連れていきます。

いつもならお弁当を作ってくるのですが、今朝は寝坊をしてしま

ったのです。

「このイン度は80%」

なるほど。日替わりメニューがカツカレーだと言いたいわけですか。

確かにイン度80%、激しいカレー臭が食欲をそそります。

くんくんと鼻をひくつかせる彼女を見て、ようやくわかってきました。

どうやら彼女は物事を度数として認識したがる傾向があるようです。

「私はリアルマネートレー度が低い関係上、B定食にしか手が届かないのです。けれど、繰り返して言いますが今日のイン度は80%」

前者はわけがわかりませんが、B定食より50円高いカツカレーが食べたいと。

仕方ありません、ボクがA定食を買うので、そのおかずのカツを進呈しましょう。

単品カレーなら、B定食より70円安いからです。

「びろりろりん」

なんですか、その効果音は。

「5%上昇」

だから何がですか。

「ひみっ」

まったく、わけがわかりません。

彼女も寮暮らしだそうで、帰り道は自然同じ方向になります。

「この商店街のアーケード度は96%ですね」

残り4%はどうしましたか。

「雨漏りしてます。老朽化の弊害ですね」

なるほど。というか雨ですか。困りました。傘は持ってきていないのです。

「アシツ度の高い雨ですね」

素直に酸性雨と言ってください。

「大丈夫。こんなこともあるかと」

彼女はカバンから折り畳み傘を取り出しました。

「アシツ度の高い雨に当たるとアルシン度が上昇しますから」

用意がいいのはお見事ですが、いまどきの若者は鹿島の河童を知りません。

というか、固有名詞を使ったネタは危険球なので自重してください。

「でも通じた」

ええ、どうせボクは年齢詐称疑惑が絶賛係争中の若年寄ですとも。ところで、彼女はどうしてもそんなに、度数にこだわるのでしょうか？

「世界には曖昧な事象が多過ぎる。それを分析せずに不安にならないのですか？」

確かに、客観的に観測可能な数値は、それ自体が安心をもたらしてくれます。

たいていそれは錯覚の類だったりしますが。

あと、別にそれをダジャレにする必要性は皆無だと思えます。

というか、日本語が不自由とか言いつつ、実は相当詳しいですよ。ねジャパニーズ。

「アバンギャル度が低いですね」

あなたの言葉遣いが無駄に前陣速攻破滅型なだけです。ボクは一応常識人なのです。

「そういう一見真面目ぶった奴ほどメイ度とか高いのだと祖母が言っていましたこの変態め」

行きつけの八百屋さんの前でそういうこと淡々と言わないでください後生ですから。

「かっこわるい」

(笑) っつければ全部許されると思っちゃいけませんよ。

というか、あんまり連呼すると頭が悪く見えますから。

「悔ってもらっては困る。こうみえて私は一族最高のハーバー度を誇る女」

天下の某大学もまさかこんな形で名前を使われるとは思わなかったでしょうね。

ちなみに何%ですか。

「20%」

まず入学できないじゃないですか。

「大丈夫。足りない分は補えばいい」

勇気とか努力とかでですか？

「リアルマネートレー度で」

裏口入学ですかそうですね。

「む」

今度は何ですか。

「先に帰っていてください。傘は貸しますから」

どこへ行くのですか。

「大丈夫。アンダーグラウン度が高いことはしませんから」

いや、説明になっていませんから。

というか、足、早いですね。あっという間に路地の奥へ消えてしまいました。

まったく、仕方ありません。

放っておくわけにはいかないでしょう。

アシツ度の高い雨はアルシン度を上げるそうですから。

あの綺麗な髪が薄くなるのは、少し忍びないでしょう。

路地裏では、小さなナマモノの前で屈んだまま固まっている度娘さん。

どうやら彼女が発見したのは、彼女いわくアシツ度の高い雨に打たれた子猫のようでした。

「ついてきたのですか。レディの言うことを聞かないとは、レッドカー度50%ですよ」

なるほど、イエローカード2枚で退場ですか。

まあ、あれです。

一応、友人がアーケー度0%な雨に突っ込むのを放っておくわけにもいきません。

「……私のブリー度が高ければ飼うのですが、あいにく某小人ばりの借り暮らしの身、そもいきません」

確かにうちの寮でペットは禁止でしたね。

飼えないなら下手に情けをかけるのは逆効果というもの。



「とか言いつつ、何であなたはこの子を抱えあげているのですか？」

さて、何故でしょう。

飼える可能性は0%。何かができる確率も高くないですが、  
度数で割り切れない、感情とかそういうチープなものせいかもしれない。

君もそんな割り切れないモノに惹かれてここに来たんじゃないの  
ですかね。

だとしたら君のアンドロイド度は、君が思うより、もっとずっと、  
低いのもかもしれませんよ、っと。

こら、暴れるなこのにゃんこめ。

「……びろりろりん」

また何の音ですか。

「とある指標が上昇した音です。具体的には5%くらい」

一応聞いておきましょう。何が上がりましたか。

「フレンド」

まったく。

してやったりとかうまいこと言ったとか、そんな顔をして、別に何も出ませんからね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1706o/>

---

度

2010年10月13日16時56分発行